

性教育授業 身体検査 ふたなりの部

最近ふたなりになった
はるきくんの場合

な、なあ先生
オレ、おかしくないよな？

最近、急におつきくなってる……

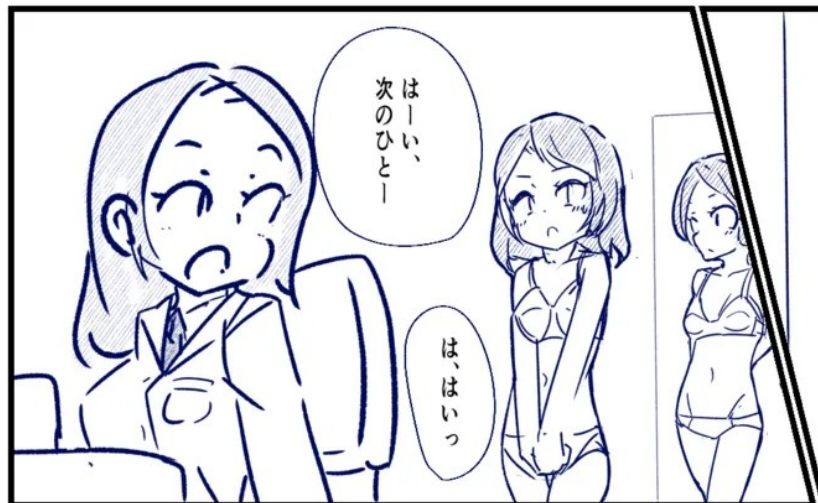
ドキッ
ドキッ
ドキッ

え、ええ、大丈夫よ
別に変なことじゃないわ

ただ、念のため
あとでもう一度検査
しておきましょうか

そんな……
いくら成長期だからって
こんなに急に……
もしかしてこの子
オナニーのし過ぎで？

次、ペニス射精検査です
あちらのドアへ
お早くおねがいします



性快感検査室





「はい。それじゃさっそく射精検査を行いますので、その器具をペニスにはめてください」

「えと…、これは」

検査室に入ったはるきの目の前には、診察台の上のレールに据え付けられた筒のような機械があった。

樹脂で作られた容器の底面には穴が開いている。

「ペニスを刺激して射精を促す器具です。その穴にペニスを挿入してください」

射精後に上部のポンプが精子を吸引しますので」

「…やっぱり入れないとダメですか？」

「検査ですので。早くしてください」

無機質に促され、やるしかないんだと意を決される。

ゆっくりペニスを挿入していくと。

「うあつ…あこれえ…」

はるきのペニスが柔らかく粘液に湿った樹脂塊につつまれる。

「それでは動かします」

検査員がボタンを押すと筒の中が収縮を開始し、同時にはるきのペニスを絞り上げるかのように、機械は上下に動き出した。



はるきのペニスを包み込む筒が無機的に上下動を繰り返す。

まるで快感を察知しているかのように内部の樹脂が拡張を繰り返しながら緩急をつけて、ペニスを絞りあげていく。

「っはぁうっ！ きもちいいっ、きもちいいよぉ！だめえ！ こんなきもちいいのっ、だめえ！」

ここが検査室であることさえ忘れてはるきは嬌声をあげてしまった。

「そろそろですね。射精してください」

検査士の冷たい声は、もうはるきの耳に届かない。搾精器によつて的確に快感を引き出される。はるきのペニスが限界へと追い詰められていく。

もどかしく自ら腰を動かし、愛液を漏らしながらヴァギナを底面にこすりつけてしまう。陰のうが引き締めまり、陰茎はかたく張り詰める。

乳首が硬くシコリ、乳輪が膨らむ。

尻穴がすぼみ、陰唇が愛液にまみれる。もうすぐ、くる。

「あぁっ、もう！ イクっ！ 出ちゃうっ！ 射精っ、射精しちゃううっ！」

ペニスの奥から脊髄を伝って、快感がのぼってくる。ついに、はるきの我慢の限界を突破する。最後の一撃が搾精器から放たれた。

はるきのペニスは一番深くまで飲み込まれ内部の樹脂にギュッと強く締めあげられた。

「うぁぁうっぁっ！ イクっ！ イグッううっ！」

ペニスとヴァギナ両方を震わせながら、はるきは絶頂してしまった。

精液を吸いだそうと搾精器が亀頭周辺を吸い上げる。ドピュリ、ドポリと叩きつける勢いで、はるきは吐精した。

「しっかり搾精できたみたいですね。検査は終了です」終了を告げる声が、はるきの耳には遠く聞こえた。

「こんなにきもちいいなんて…、オレもう…」

どうやってたらこういう筒を買えるのか。家に帰ったらネットで検索しようと思うはるきだった。